

ダイヤモンドに應える学校を考える

—組織における危機管理意識の育成—

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林 明夫

(経済同友会 会員)

1. はじめに

(1) 自己紹介

(2) マニー株式会社 社外取締役も(ジャスダック・J ストック 手術用縫合針)

2. 「学校経営品質向上」の取り組みを

(1) 経営とは「営みを経て目的を達すること」

(2) 経営品質の基本理念—学校への応用を

①顧客本位(顧客満足度、顧客不満足度)

②独自能力(競合比較、ベストプラクティスのベンチマーキング—社内、同業他社、異業種、実験)

③社員重視(empowerment エンパワーメント、能力強化→権限委譲)

④社会との調和(法令遵守、企業としての社会貢献)

(3) 「キー・コンピテンシー」の研究と取り組みを— PISA(読書量が決定的要因)、全国学力調査、新学習指導要領の根底に流れる学力観—

①相互作用的に道具を用いる能力 (知識基盤社会)

②異なった集団で交流する能力 (グローバル化された社会)

③自律的な活動をする能力 (超高齢化社会)

(4) 教育の質とは

①「カリキュラムの質」 → 「かくれたカリキュラム」の重視

②「教師の質」 → 「教職専門職大学院」の活用

③「マネジメントの質」 → 「校長・副校長・主幹はマネジメントの勉強を」

(5) 教育成果の決定要因は

①本人の自覚

②教師の力量

(6) 小・中連携の強化で、公教育の独自能力の発揮を

(7) 学校教育こそ「社会的使命感に基づいた経営」を(Mission Based Public Manegement)

(8) 「多様な選択肢のある生き方」をすべての国民に

(9) Learning To Learn(学び方を学ぶ)スキルを

3. デイマンドに應える学校を考える

- (1) デイマンド(需要・要求)は、保護者の期待や満足度により形成される。
- (2) 『より高度な教育を受けた保護者ほど、教育に対しより低い満足度を示す。彼らはより批判的である。都市部の保護者の方が郡部の保護者より満足度が低い。これは、より高度な教育を受けているために、それだけ批判的になっていること、および都市部にはさまざまな問題があることが理由として考えられる。』 OECD 未来の教育改革 3－ SCHOOL FOR TOMORROW－「デイマンドに應える学校－教育の社会的需要と供給－」 OECD 教育研究革新センター 明石書店 2007 年 11 月 20 日刊 15 ページ
- (3) 「国別報告書の質問項目」前掲書 195 ～ 202 ページ

4. 組織における危機管理意識の育成－開倫塾の場合－

- (1) クレーム対応

- (2) 退塾者サーベイ

5. おわりに

- (1) 副校長とは校長の右腕
- (2) 組織における危機管理とは
- (3) 国際競争力ある学校づくりを

以上
御清聴を感謝いたします。